

# 学童保育の保護者が求める情報提供方法の検討

— 保護者アンケート調査結果から —

廣 田 有 里\*

## 要 約

現代社会の変化に伴い、学校は保護者や地域住民などに積極的に情報提供することの必要性が求められている。このことを受け、学校は家庭・地域との連携を深めるための手段としてウェブサイトを開設し、情報発信に務めるようになり、その方法・内容・効果についての研究成果も多く発表されている。しかし、児童が放課後の多くの時間を過ごす学童保育については、学童保育・保護者間の情報交換についての調査や研究はされていない。そこで、本研究では今後の学童保育の情報発信を実践するための基礎調査として、質問表において、学童の保護者が普段使用するメディアと学童から発信してもらいたい情報についての調査を行った結果を報告した。

学童保育における情報発信では、スマートフォンを想定した情報発信やユーザーインターフェース・子どもたちの行事や日常生活の様子の掲載・緊急性のある情報はプッシュ型の情報提供の3点を検討する必要があることが確認された。保護者はメディアの特徴を踏まえた情報発信の使い分けを希望していることが明らかになった。

キーワード：学童保育、情報発信、インターネット、保護者

## はじめに

インターネットが社会に広く普及し、情報提供の手段が多様化し、学校からの情報提供の手段も情報化に対応することが望まれている。学校から保護者への情報発信の必要性については、すでに「平成15年度文部科学白書」(2003, 文部科学省)にて、学校は、学校運営の状況について自己評価を行い、その結果を含めて保護者などに積極的に情報提供することの必要性が述べられている。このことを受け、学校は家庭・地域との連携を深めるための手段としてウェブサイトを開設し、情報発信に務めるようになり、その方法・内容・効果についての研究成果も多く発表されている。

しかし、児童が放課後の多くの時間を過ごす学

童保育については、学童保育・保護者間の情報交換についての調査や研究はされていない。保護者は学童保育に、放課後の子どもの安全性と社会性を求めており、学校とは異なる情報提供が必要であると考えられる。

そこで、次年度の学童保育の情報発信の手段を実践するための基礎調査として、質問表において、小学校ウェブサイトの研究で小学校が保護者に発信している現状とニーズを比較した結果を踏まえ、学童の保護者が普段使用するメディアと学童から発信してもらいたい情報についての調査を行った結果を報告する。

## 1. 研究背景

インターネットが広く社会に普及し、情報検索の手段として定着している。「平成28年度版情報通信白書」では、インターネットの人口普及率は

2017年11月30日受付

\* 江戸川大学 情報文化学科准教授 ソフトウェア工学

80%を超えており、利用目的は「電子メールの送受信」が最も多く、次いで「ホームページ・ブログの閲覧、書き込み」「ソーシャルネットワーキングサービスの利用」「動画投稿・共有サイトの利用」「地図・交通情報の提供サービス（無料のもの）」「天気予報の利用（無料のもの）」「ニュースサイトの利用」が高く、情報を取得することにインターネットを利用している傾向が見て取れる。ソーシャルネットワーキングサービスの利用目的についても、「従来からの知人とコミュニケーションを取るため」が最も高いが、次いで「知りたいことについて情報を探すため」が高いことから、ソーシャルネットワーキングサービスでも情報検索を目的としていることが分かる。

学校から保護者への情報発信の必要性について、すでに「平成15年度文部科学白書」にて、保護者などに積極的に情報提供することの必要性が述べられている。このことを受け、学校は家庭・地域との連携を深めるための手段としてウェブサイトを開設し、情報発信に務めるようになり、その方法・内容・効果についての研究成果も多く発表されている。

山田は、不審者への対応・保護者のニーズの多様化による情報の収集・発信の必要性より、携帯電話の可能性を検討するため、携帯電話によるアンケート調査を試みた。保護者アンケート結果より、不審者の出没が不安視されていたため、携帯電話用ウェブサイトおよび電子メールでの不審者情報の発信を行った。不審者情報に関しては自ら情報を取りにいかなければならないウェブサイトより、迅速に情報が伝わる電子メールが適していることを明らかにした（2005、山田）。

河合らは、学校情報の発信方法の一つとしてインターネットを利用したウェブサイトを提案し、学校が適切な情報発信を行うためのウェブサイトの構成と運用・管理の方法を検討している。河合らは学校ウェブサイトの情報を有効期限が長く更新頻度が1年に1回程度の「ストックの情報」と、有効期限が短く更新頻度が1週間から学期に1回程度の「フローの情報」とに分け、兵庫県の公立学校ウェブサイトの内容が、「ストックの情報」

が約30%、「フローの情報」が約70%であることを明らかにした。そして、フローの情報は直ちに更新することが保護者の満足度を高めるため、更新が容易なブログを利用して従来のウェブサイトと融合させることを提案している（2010、河合ら）。

一藁らは、情報化社会の中で情報提供のメディアが多様化し、保護者のニーズも高い中、学校が提供する情報と保護者の求める情報には乖離があることを指摘し、飯能市立小学校を対象に保護者の情報のニーズと情報提供の現状比較を行っている。調査結果から、児童の生活の様子・いじめや不登校などの問題に関する対処は文書や参観・話し合いでの情報提供をすることが小学校・保護者共に高く、互いのニーズが合致しているが、災害時などの緊急時の連絡は、小学校が文書で提供している反面、電子メールでの情報提供を望む保護者が多いことを明らかにしている。また、保護者の年齢でのニーズ分析の結果から、若い層ほどインターネットを活用した手段を求めていることも明らかにしている（2012、一藁ら）。

このように、学校・保護者間の情報交換についてはいくつかの調査や研究が実地され、適切な情報提供の方法が検討されているが、児童が放課後の多くの時間を過ごす学童保育については、学童保育・保護者間の情報交換についての調査や研究はされていない。

東京都社会福祉協議会が2014年に都内の学童保育を利用している保護者に行った調査では、保護者が学童保育に期待するのは「親のいない時間の安全性」であり、それに次いで「異年齢集団との交流を通じた社会性」と「ほっとできて通い続けられる」ことが挙げられている。学童保育には、学校とは異なる場としての期待があることがわかる。

渡邊が大都市（東京都区郡と政令市）の学童保育に2010年に行った子どもの生活環境・保育内容の調査では、学童保育と保護者との連絡は、連絡帳を使用している施設は約90%、個別記録の作成をしている施設が約40%、個別面談を実施している施設は約50%という結果が出ており、学童保育の指導員と保護者が一緒に子育てをして

いくという施設として、日常的なつながりを整備していくことの必要性が述べられている（2010、渡邊）。

学童保育に求められている役割は学校生活とは異なり、「安全性」や「社会性」が求められており、児童一人一人の学童保育の生活が不安や緊張のない安心できる環境が保障される必要がある。そのためにも、学童保育には学校とは異なる保護者との情報交換が必要であると考えられる。

そこで本研究では、今後の学童保育の保護者との情報交換を実践するための基礎調査として、質問表において、学童の保護者が普段使用するメディアと学童から発信してもらいたい情報についての調査を行った結果を報告する。

## 2. 学童の情報発信に関する調査

### 2-1 調査方法

調査は、千葉県流山市の子育て支援ネットワーク「ライズアップ」と流山市学童保育運営「でんでんむし」が運営する学童保育8か所の保護者に対して行った。調査期間は2016年11月とした。回収した有効データは、152件であった。

調査項目は、河合らと一葉らが行った小学校ウェブサイトの研究で小学校が保護者に発信している項目とニーズを比較した結果を踏まえ、「インターネットの利用状況」と「学童から発信してもらいたい情報と手段」について調査する構成とした。

調査項目は、3分類16項目である。

#### ① 基本項目

- 1) 性別
- 2) 年齢
- 3) 居住地域
- 4) 居住年数
- 5) 同居子ども数
- 6) 同居家族数
- 7) 同居家族構成
- 8) 生計主の就業形態
- 9) 回答者の就業形態
- 10) 回答者の帰宅時間

#### ② インターネット利用状況

- 1) メディアごとのインターネットの利用時間
- 2) 利用 SNS
- 3) 学童のホームページの閲覧頻度
- 4) 学童のホームページの閲覧手段

#### ③ 学童から提供して欲しい情報

- 1) 学童から提供して欲しい情報
- 2) 学童から提供して欲しい情報の提供手段

回収したアンケート結果は、統計ソフト IBM SPSS Statistics 23 を用いてクロス集計、カイ二乗検定を行い、 $p < 0.05$  を有意差ありとした。

### 2-2 調査結果

メディアごとのインターネットの利用時間の項目では、今後、インターネットを通じて情報発信

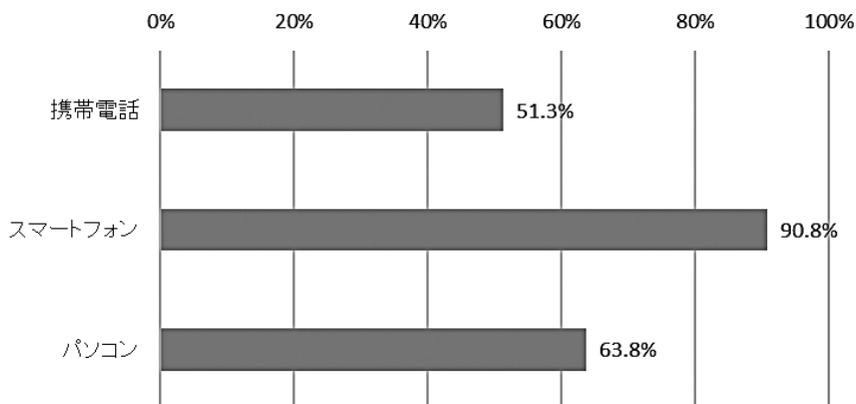


図1 メディア別インターネットの利用率 (%) (n=152 na=4)

する場合に、保護者にその環境や習慣があるかの調査を行った。

各メディアの利用時間の回答が「ほとんど利用しない」以外をそのインターネットを利用していると考えたインターネットの利用率を図1に示す。スマートフォンからの利用者が90.8%と最も高く、携帯電話からの利用者は51.3%と最も少ない。

図2に示したのが、各メディアでのインターネット利用者における接続時間である（行為者のみの値）。携帯電話によるインターネット利用者は、半数は接続時間が1時間未満と短く、全体的な利用時間が他のメディアに比べると短い傾向にある。

逆にパソコンからのインターネット利用者は、63.9%が1時間未満であるものの、5時間以上の利用者が他の2つのメディアに比べて多く、利用者の中で利用時間が2極化していることが読み取れる。利用者が最も多いスマートフォンでは、1～3時間未満の利用者が44.9%と最も多いが、全体的な傾向は、携帯電話利用者と似た傾向を示していた。よって、パソコンからのインターネット利用は、携帯電話、スマートフォンとは異なる性格を持っているため、アクセスのしやすさという意味で、スマートフォンを想定した情報発信やユーザーインターフェースを検討する必要性があ

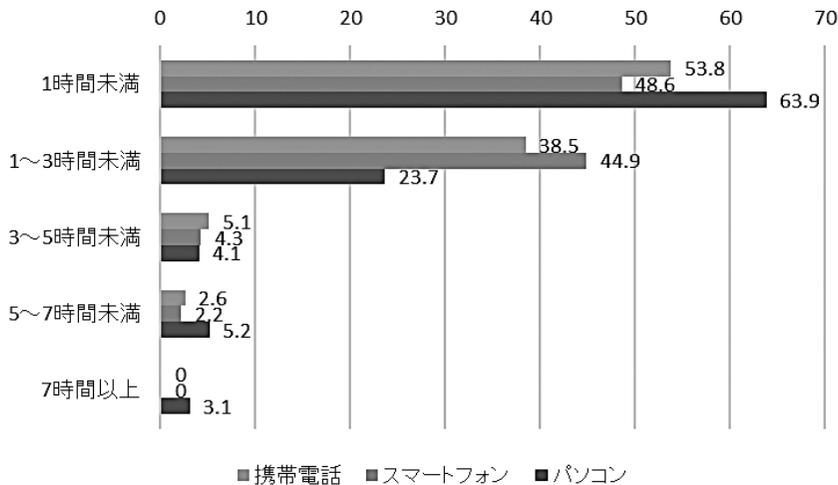


図2 メディア別インターネット接続時間 (%) (n=152 na=4)

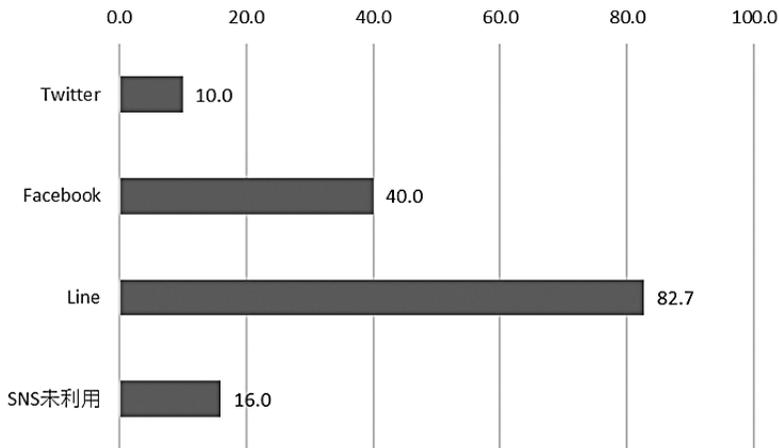


図3 利用SNS (%) (n=152 na=4)

ることが確認された。

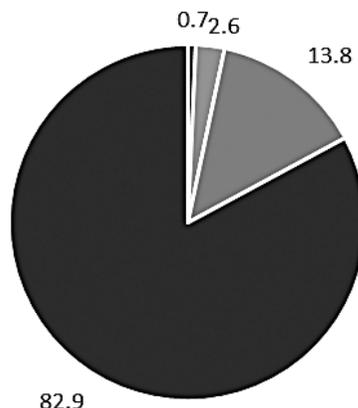
利用している SNS を確認した質問では、一番なじみの深いコミュニケーションツールは何かを調査し、もっとも使用しやすいコミュニケーションの形式と、学童保育が情報発信に使用できる既存の SNS は何かを明らかにしようとした。図 3 に示したのが、利用している SNS の結果である。

結果より、LINE の使用率が最も高く半数を超え、ついで Facebook の使用率が高いことが分かった。平成 27 年度の情報通信白書の調査によると、最近約 1 年以内に利用した経験のある SNS を尋ねたところ、LINE (37.5%)、Facebook (35.3%)、Twitter (31.0%) の順となっている。これらの一般的な数値と比較すると、学童保育の保護者は LINE 使用率が高く、Twitter の使用率が低い。しかしながら、LINE は個々でのコミュニケーションを行うツールであることから学童からの情報発信に適しているとはいえ、既存の SNS での情報発信では、一部の受け手にしか情報が届かないことが確認された。

学童のホームページの閲覧頻度を質問した項目より、現在の学童保育のウェブサイトの利用状況を調査した。図 4 に、学童のホームページの閲覧頻度の割合をグラフで示す。「毎日少なくとも 1 回」と回答した保護者は全体の 0.7% にすぎず、「週に少なくとも 1 回」と回答した保護者も 2.6% である。82.9% の保護者が 1 月に 1 回より少ない

頻度でしかホームページを閲覧しておらず、学童保育のウェブサイトがほとんど利用されていないことが確認された。

河合らの研究からは「フロー情報」の適切な更新が必要であり、少なくとも週 1 回程度の更新を行うことにより保護者の満足を得られることが分かっている。現状は、保護者は学童保育のウェブサイトにも週 1 回以上閲覧する必要がある更新され



- 毎日すくなくとも1回
- 週にすくなくとも1回(毎日ではない)
- 月にすくなくとも1回(毎週ではない)
- それ以下

図 4 学童のホームページの閲覧頻度 (%)

(n=152 na=4)

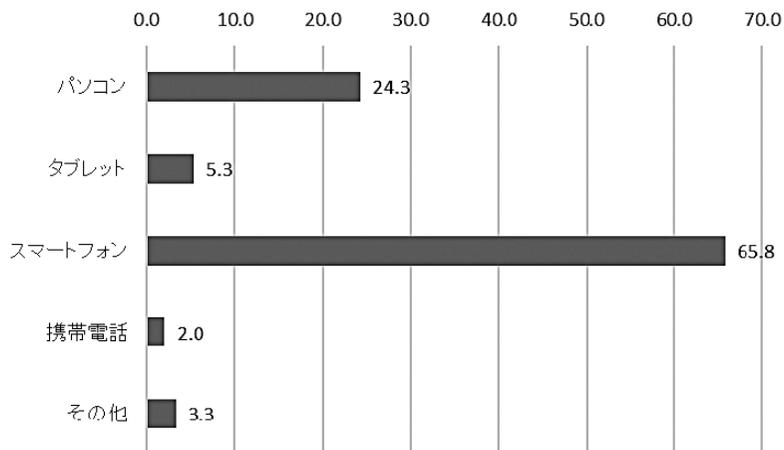


図 5 学童のホームページを閲覧するときの手段 (%)

(n=152 na=4)

た情報が掲載されていないと考えており、今後はウェブサイトへの誘導と定期的な更新の計画を立てる必要がある。

学童のホームページの閲覧手段を確認した質問より、手段ごとの割合を図5に示す。スマートフォンでの閲覧が多いことが確認できる。これは、普段インターネットを閲覧するために使用している機器の割合とも合致している。

図6に示したのが、学童保育から提供して欲しい情報について、項目を挙げてその情報をどれくらい知りたいかを質問した結果である。

河合らと一葉らが行った小学校ウェブサイトの研究で調査対象になっている項目のうち、学童保育には当てはまらないものを削除し、東京都と千葉県のいくつかの学童保育のウェブサイトの調査より挙げた項目を追加して決定した。

「かなり知りたい」と「やや知りたい」を選択した割合は、「学童の運営方針」と「子どもの生活習慣改善や病気の予防などに関する情報」以外は、すべて90%以上であった。中でも、「年間行事予定」や「行事の活動での子どもたちの様子」や「児童の学童での日々の生活の様子」の「かなり知りたい」の割合が高く、行事や生活での児童の様子への関心が高いことがわかる。このことより、「フロー情報」である学童の様子を日常的に発信するニーズが高く、更新速度と頻度を高めることにより保護者のウェブサイトへの満足度を高

めることができると考えられる。

「学童のホームページを閲覧するときの手段」と「学童から提供して欲しい情報」をクロス集計した結果、統計的有意差が認められたのは、「学童のホームページを閲覧するときにもっともよく使用する手段」が「その他」を選択した時だけであった。これは、学童のホームページを閲覧するときの手段が「その他」を「あり」と回答した人数が少なく、少ない「あり」の回答者の一部が、学童から提供して欲しい各情報を「全く知りたくない」および無回答を選択しているためである。このことから、学童のホームページを閲覧するときの手段が「その他」を「あり」と選択している回答者は、学童のホームページを閲覧しない・する意思がないことがうかがえる。このことからメディア利用と提供してほしい情報には、関連がないことが分かった。

「性別」と「学童から提供して欲しい情報」をクロス集計した結果、下記の項目で統計的有意差が認められた。学童から提供して欲しい情報の「1.学童の運営方針」、「3.支援員の紹介、役割分担」、「4.学童で発生した問題に関する学童の対処とその結果」、「5.学童内での事故防止など安全に関する情報や取組状況」、「6.災害時等緊急時の学童の対処、保護者の対処」、「7.災害時などの緊急時の保護者への連絡」、「9.行事の活動での子供たちの様子」。男性の母数が少ない（8.6%）中で、

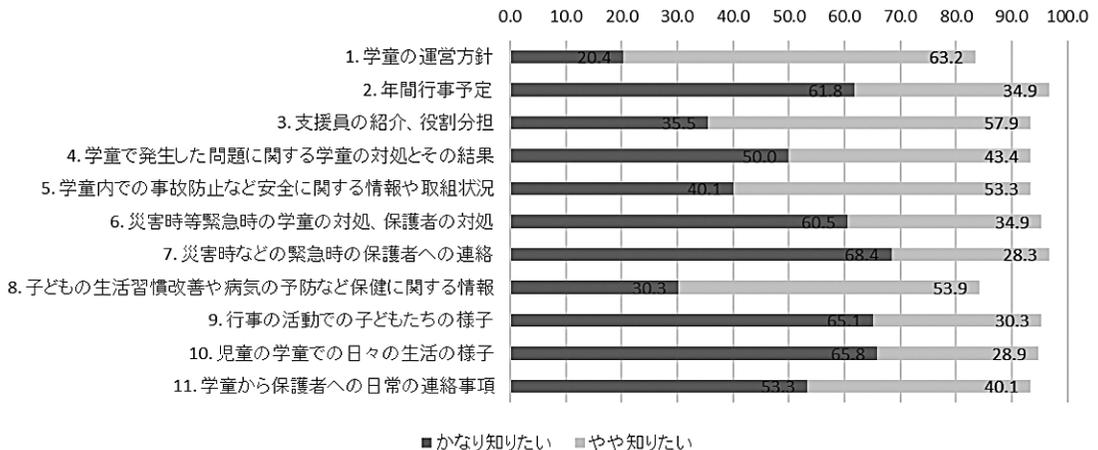


図6 学童保育から提供して欲しい情報 (%)

(n=152 na=4)

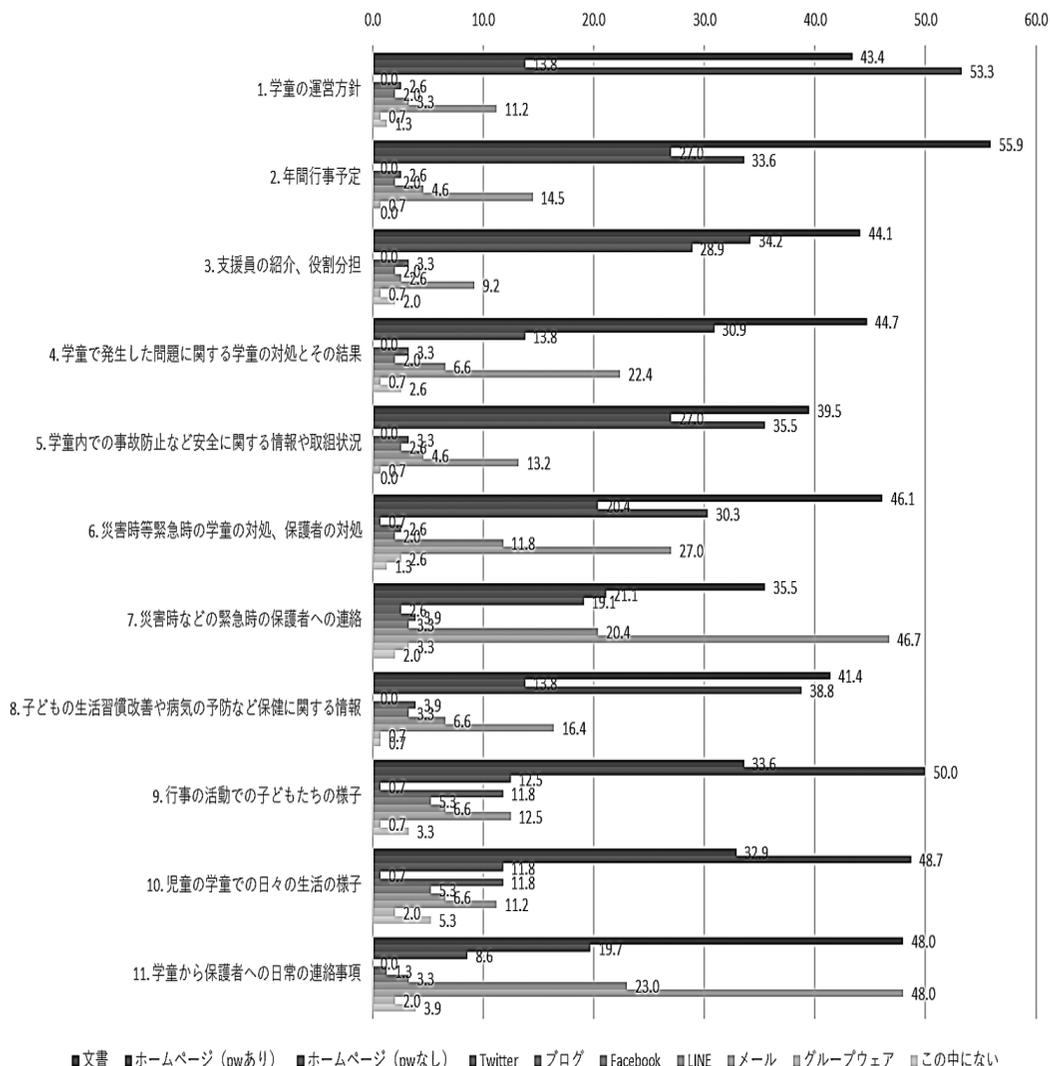


図7 希望する情報提供手段（項目別）（%）

(n=152 na=4)

「かなり知りたい」を選択している人が少なく、「あまり知りたくない」「全く知りたくない」を選択した人がいたため、有意差が表れている。先ほどの学童のホームページを閲覧するときの手段が「その他」を「あり」と選択している回答者のはのうち、男性の割合が高く、「あまり知りたくない」「全く知りたくない」と回答している回答者と共通している。

図7に、学童保育から提供して欲しい情報について、前記と同じ項目で、どの手段で提供して欲しいかを聞いた結果を示す。今後、情報発信ツ

ルの実装につなげていくために、保護者が希望するツールを明らかにしていきたい。

「1. 学童の運営方針」は、ホームページ（パスワードなし）（53.3%）が最も高く、次に文書（43.4%）、ホームページ（パスワードあり）（13.8%）の順になった。「2. 年間行事予定」は、文書（55.9%）が最も高く、ホームページ（パスワードなし）（33.6%）、ホームページ（パスワードあり）（27.0%）の順になった。「3. 支援員の紹介、役割分担」は、文書（44.1%）が最も高く、ホームページ（パスワードあり）（34.2%）、ホー

ムページ（パスワードなし）（28.9%）の順になった。これら3項目の情報は「ストック情報」に当たり、1年に一回程度の更新で済む情報であり、ホームページに掲載するのに適した情報であるといえる。しかしながら文書の割合が高いのは、手元に残して常に閲覧可能な状態にしておきたい情報であるためと考えられる。

「4. 学童で発生した問題に関する学童の対処とその結果」は、文書（44.7%）が最も高く、次にホームページ（パスワードあり）（43.4%）、メール（22.4%）の順になった。「5. 学童内での事故防止など安全に関する情報や取組状況」は、文書（39.5%）が最も高く、次にホームページ（パスワードなし）（35.5%）、ホームページ（パスワードあり）（27.0%）の順になった。「6. 災害時等緊急時の学童の対処、保護者の対処」は、文書（46.1%）が最も高く、次にホームページ（パスワードなし）（30.3%）、メール（27.0%）の順になった。「7. 災害時などの緊急時の保護者への連絡」は、メール（46.7%）が最も高く、次に文書（35.5%）、ホームページ（パスワードあり）（21.1%）の順になった。「8. 子どもの生活習慣改善や病気の予防など保健に関する情報」は、文書（41.4%）が最も高く、次にホームページ（パスワードなし）（38.8%）、メール（16.4%）の順になった。これらの情報は「ストック情報」と「フロー情報」の中間的な位置づけで、必要な時に迅速に更新される必要がある情報で、更新頻度は決まっていない。プライバシーを考慮する必要がある4は、文書とメール、パスワードありのホームページでの情報提供が望まれており、緊急性が高い7は、プッシュ型で情報を受け取ることができるメールでの情報提供の希望が高い。

「9. 行事の活動での子どもたちの様子」は、ホームページ（パスワードあり）（50.0%）が最も高く、次に文書（33.6%）、ホームページ（パスワードなし）（12.5%）・メール（12.5%）の順になった。「10. 児童の学童での日々の生活の様子」は、ホームページ（パスワードあり）（48.7%）が最も高く、次に文書（32.9%）、ホームページ（パスワードなし）（11.8%）・ブログ（11.8%）の順

になった。「11. 学童から保護者への日常の連絡事項」は、文書（48.0%）とメール（48.0%）が最も高く、次にLINE（32.9%）、ホームページ（パスワードあり）（19.7%）の順になった。これらの情報は「フロー情報」に当たり、更新頻度の高い情報である。週1回程度更新されることにより、利用者満足度を高めることができる。9と10の行事や日常の子どもたちの様子は、プライバシーを考慮する必要があるため、文書とパスワードありのホームページでの情報提供の希望が高い。また、ブログでの提供の希望が高い点も特徴的である。11の連絡事項は、文書とメールが高く、また、LINEでの情報提供の希望が高い。保護者自身もインターネットを通じた情報提供は伝達速度が速い・マルチメディアで提供されるという特徴を踏まえており、緊急を要するものはメールやLINEでの配信、写真等の提供を望むものはホームページ（パスワードあり）での配信を希望していることが確認できた。また、ホームページでの情報提供について、プライバシーを考慮する必要がある情報はホームページ（パスワードあり）で、公開してよい情報はホームページ（パスワードなし）での提供と使い分けしていることも確認できた。

図8に、図7の学童保育から提供して欲しい情報について、手段ごとに表した結果を示す。全体的に文書での情報提供の要望が高いが、ホームページやブログ、Facebook、LINE、メールでの情報提供の要望も見られる。

これらの要望をもう少し詳しく見ていく。「性別」と「学童から提供して欲しい情報の手段」をクロス集計したの結果、下記の項目で統計的有意差が認められた。学童から提供して欲しい情報が「1. 学童の運営方針」、「3. 支援員の紹介、役割分担」、「5. 学童内での事故防止など安全に関する情報や取組状況」、「8. 子どもの生活習慣改善や病気の予防など保健に関する情報」、「9. 行事の活動での子どもたちの様子」、「10. 児童の学童での日々の生活の様子」と情報提供手段が「Facebook」の回答結果および、学童から提供して欲しい情報が「9. 行事の活動での子どもたちの様子」、「10. 児童の学童での日々の生活の様子」と情報提供手

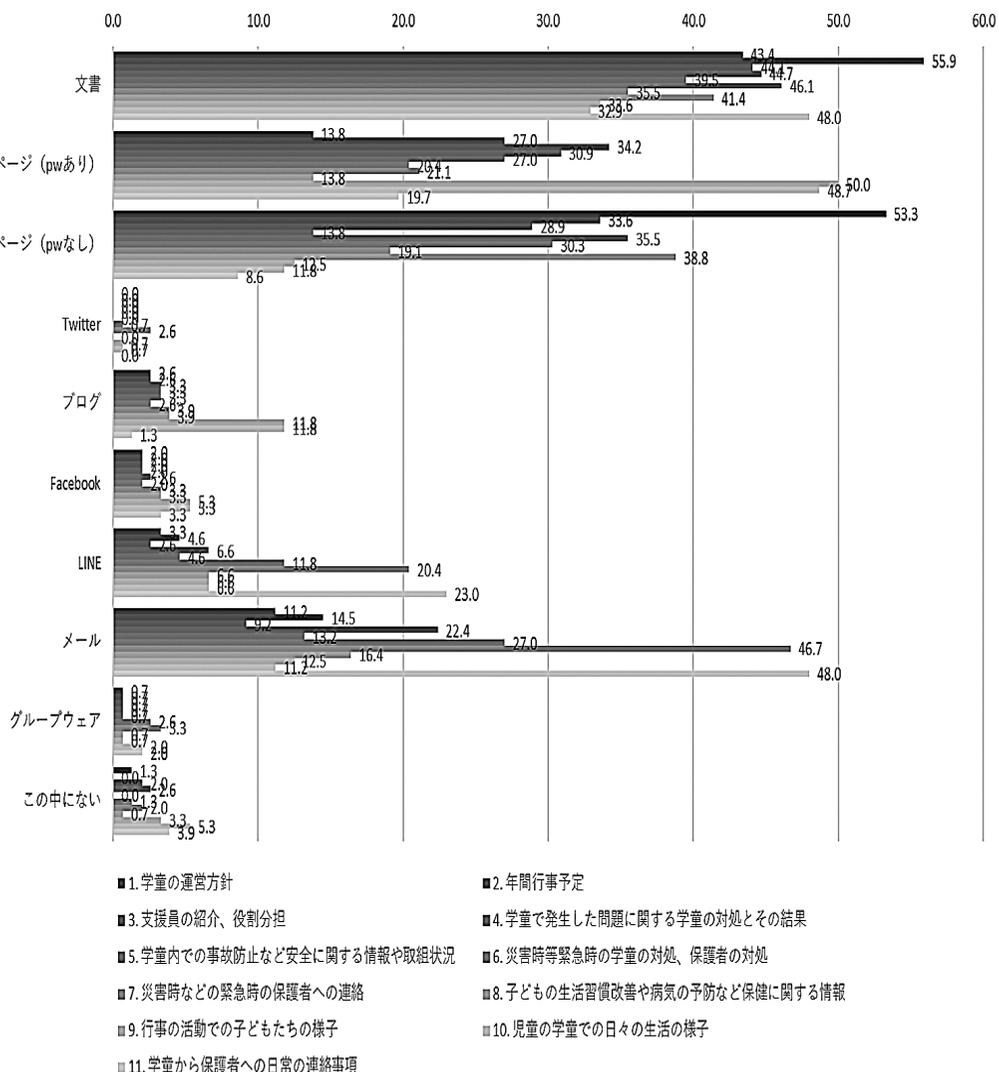


図8 希望する情報提供手段（手段別）（%）

(n=152 na=4)

段が「Twitter」の回答結果であった。いずれも男性の母数が少ない中で「ある」を選択している男性の割合が高く、有意差が表れている。これらのSNSで提供が要望されている情報は緊急性が低く、日ごろの学童の様子を知ることができる情報であり、SNSの性質に適した情報が要望されている。男性は普段利用しているSNSの性質を把握し、最適なツールでの提供を要望しているといえる。

「普段利用しているSNS」と「学童保育の情報提供の手段」をクロス集計した結果、下記の項目

で統計的有意差が認められた。学童から提供して欲しい情報の手段が「9.」の情報提供手段が「Twitter」および、「10.」の情報提供手段が「Twitter」と普段利用しているSNSが「Twitter」の回答結果、学童から提供して欲しい情報の手段が「8.」の情報提供手段が「Facebook」、 「9.」および「Facebook」および、「10.」の情報提供手段が「Facebook」、 「11.」の情報提供手段が「Facebook」と普段利用しているSNSが「Facebook」の回答結果である。普段、Twitterを利用している人がTwitterでの情報提供を、

Facebook を利用している人が Facebook での情報提供を要望している割合が高い結果となっている。このように、普段利用している人がそれらの SNS での情報提供を希望していることが分かった。保護者はそれぞれのツールの特徴を理解したら、その特徴を踏まえた適切な情報提供を望んでいると考えられる。各情報に適した手段を使用すれば、現在使用していないツールを使ったとしても、保護者の満足する情報提供を行えるのではないかと分析できる。

### まとめ

学童保育の情報発信に関して調査した本論文で明らかになった点は以下のとおりである。

1. アクセスのしやすさという意味で、スマートフォンを想定した情報発信やユーザーインターフェースを検討する必要がある
2. 現在、保護者の学童のホームページの閲覧件数は少く、そこから対策を考える必要がある。保護者は子どもたちの行事や日常生活の様子等はホームページ（パスワードあり）での情報提供の要望が高く、緊急性のある情報はメールでの情報提供の要望が高く、保護者はメディアの特徴を踏まえた情報発信の使い分けを希望している

保護者のメディア利用の調査結果から、スマートフォンの利用率とアクセス時間が多い傾向があり、スマートフォン想定した情報発信を考える必要がある。

現行のホームページは閲覧頻度が非常に低いが、保護者は「行事の活動での子どもたちの様子」「児童の学童での日々の生活の様子」などの子ども

たちの様子を、写真などのマルチメディアを含む情報提供はパスワード付きのホームページで提供して欲しい要望が高いことが分かった。1週間に1回程度のこれらの情報更新を行うことにより、ホームページの閲覧頻度を上げることができると考えられる。「災害時等緊急時の保護者への連絡」「学童から保護者への日常の連絡事項」などの緊急性がある情報は、メールでの配信を望んでおり、保護者はメディアの特徴を踏まえた情報発信の使い分けを希望していることが確認できた。

今後は、これらの要望を踏まえ、学童保育から保護者に向けて情報発信する方法を提案していきたい。

### 参考文献

- 総務省 (2018) 「平成 28 年版情報通信白書」 <http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h28/>
- 文部科学省 (2003) 「平成 15 年度文部科学白書」 [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/hpab200301/index.html](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab200301/index.html)
- 山田信雄 (2005) 「IT を活用した「学校と保護者・地域社会」との情報の発信・収集」日本教育情報学会第 21 回年会 Aug 20-21, p. 166-169
- 一藁久美子・杜正文・野村正弘 (2012) 「公立小学校における情報発信の媒体について」メディアと情報資源 19(2), p. 13-21
- 東京都社会福祉協議会 (2015) 「保育所と学童保育の連携による学齢期の成長を見据えた保育——利用保護者調査と実践事例——」
- 渡辺多加子 (2011) 「小学生の子育てと仕事の両立支援の課題と展望(2)——学童保育サービスの実施状況と環境整備の課題——」国民生活研究 第 50 巻第 3 号, p. 127-152
- 河合良成・岩井高士・米谷繁・坂本泰三 (2015) 「家庭・地域との連携を深めるための情報発信の在り方に関する研究——学校ウェブサイトにおけるブログ活用の可能性を探る——」兵庫県立教育研究所研究紀要 第 121 集, p. 95-104